

障害者支援 最前線

読売新聞の「あんしん社会保障」欄に障害者支援・最前線という記事が連載されたが、11月22日の記事に掲載された右の写真に注目した。どこかで見たことがあると思って記事を読むと、大学に向かう途中の御器所近くの話だった。



記事によると、こうしたポスターは近くの福祉施設の建設に反対する住民のものである。施設を計画しているのは、建設予定地を拠点に障害者や高齢者の支援を行っている社会福祉法人「AJU 自立の家」である。1984年に現在地に本部を移転してから、通所施設や福祉機器レンタル事業などを展開して、イベントなどには多くの住民も参加してきたという。

ところが、建替え・建設計画が公表されると、反対運動が一気に拡大して、署名運動により建設反対の要望書が市に提出されることになる。こうした運動の過程で「住環境は自分たちで」「許しません」といったポスターが掲示されたのである。よく朝早く通る通勤路の途中にあった玄関先に掲げられた右のようなポスターが気になっていたが、今回の記事を読んで、やっと事態をつかむことができた。



精神、知的障害者の施設建設にともなう住民との摩擦は各地で報告されているという。佐賀市で知的障害者が警察官に路上で取り押さえられ、死亡した事件が波紋を広げているが、いつも通る御器所の事例にもひきつづき注目していきたい。

(2007年12月2日)